

研究主題

関わり合いの中で具体的に表現する児童の育成

～考えを具体化し、共有するためのICT～



御挨拶

昭島市立玉川小学校
校長 小川 広樹

本校では、令和4・5年度昭島市教育委員会研究指定校として、研究主題を「関わり合いの中で具体的に表現する児童の育成」とし、副主題を「考えを具体化し、共有するためのICT」として研究を進めてまいりました。新型コロナウイルス感染症対策のためにマスク着用、密集・密接を避け、対面での対話的な学びなどが制限される中、GIGAスクール構想により一人1台のタブレット端末が配られたことを機に、ICTを有効に活用する授業を考えてみようとして研究を進めてきました。研究発表では、御参会の皆様にご研究の成果をお持ち帰りいただき、明日からの授業に役立つ内容をお伝えできればと考えております。分科会での発表と協議を行いますので、多くの方の御意見を頂けると幸いです。

本研究の推進に当たり懇切丁寧に御指導いただきました明星大学 教育学部准教授 今野 貴之先生、また、貴重な機会を与えてくださいました昭島市教育委員会に心より感謝申し上げます。



昭島市立玉川小学校

〒196-0031 東京都昭島市福島町2-8-1

【学校HP】



【学校要覧】



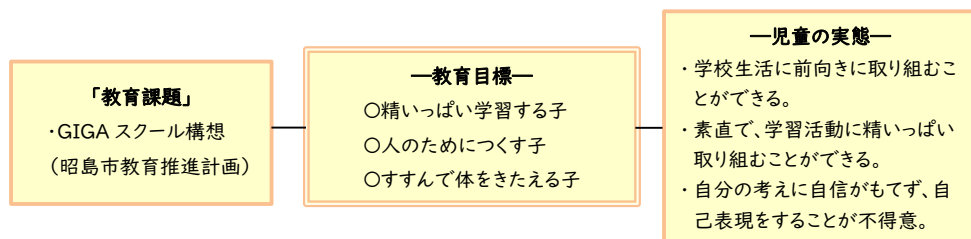
研究の経緯

昨年度からの2年間、研究主題「関わり合いの中で具体的に表現する児童の育成～考えを具体化し、共有するためのICT～」の下、研究を進めてきた。

初年度に行った児童の実態調査からは、学習や行事に対して熱心に取り組める児童が多い一方で、他者に伝える場面になると消極的になるなど、自己表現を苦手とする児童が多いことが分かった。

そこで、目指す児童像を「自分の考えを具体的に表現する児童」とし、友達などに関わり合いながら気が付いたり考えを深めたりする授業づくりについて検討した。自分の考えを具体化するために、ICTを含めた様々な媒体の中から、考えや思いに合わせて選び表現できるように日々の授業改善を積み重ねてきた。

研究構想図



研究主題

関わり合いの中で具体的に表現する児童の育成

～考えを具体化し、共有するためのICT～

目指す児童像

	意見をもつ	関わり合いの中で深める	具体的に表現する
低学年			自分の思いを友達にはっきりと伝える。
中学年	自分の考えや思いをもち、深める。	他者の意見を自分の考えと比較し、良さや工夫に気付きながら聞く。	相手を意識して友達や学級に様々な方法を工夫して伝える。
高学年			伝えたいことに応じて友達や学級、全校に表現方法を選んで具体的に伝える。

関わり合う場の設定

伝えたい相手意識
必然的に関わり合う場の設定

意欲を高める授業づくり

挑戦したくなる「ミッション」
のある単元構成の工夫

考えの可視化

考えを具体的に表すためのツール選択
共有しやすくする可視化

いつでも使える ICT環境

- 昭島市の「身に付けさせたい ICT 操作能力」の表に基づいた指導
- 玉川タイムでのタブレット端末活用
- ICT 環境整備
- 家庭学習での活用
- 情報モラルやマナーの指導
- 教員 ICT 研修

研究実践

【令和4年度】

【低学年分科会】
第2学年 生活科
「作ってためして」



【中学年分科会】
第4学年 社会科
「とどけよう命の水」
～玉川兄弟と玉川上水の開発～



【高学年分科会】
第5学年 道徳科
「きまりを守る大切さ」
(規則の尊重)



【令和5年度】

【低学年分科会】
第2学年 生活科
「私たちの町教え隊」



【中学年分科会】
第3学年 体育科
「勝つぞ! 勝つぞ! 勝つぞ~!
セストボール」



【高学年分科会】
第6学年 社会科
「原始の変化を伝えよう
縄文から弥生へ」



授業公開

研究授業学級	教科	単元名	授業会場	協議会会場
1-2	生活	もうすぐ2年生	1-2	1-1
2-2	生活	動くおもちゃ研究所	2-2	2-1
3-2	体育	つなげ! キャッチバレーボール	体育館	3-1
4-2	音楽	オリジナルチャイムの旋律をつくろう	音楽室	4-1
5-2	社会	未来とつながる情報	5-2	5-1
6-1	国語	わたしはこうやって生きていきたい	6-1	6-2

日常の取組

特別活動

委員会



クラブ活動



縦割り班活動



・異年齢集団による活動（関わり合い）と タブレットを活用した交流

朝学習（玉川タイム）



・タイピング練習 ・撮影動画の共有
・じらーニング（個別学習）など

教員研修



・教員の ICT スキル向上
・毎週、部会ごとに関わり合いの中で ICT を取り入れた実践報告を行い 情報を共有

成果と課題

【成果】

- ・話し合う場面で写真や思考ツールなど可視化された具体物があると、根拠を基に自信をもって伝えることができた。
- ・タブレットのツール（Padlet など）で、学級や学年、学校の枠を瞬時に越えて情報を共有することができた。
- ・動画を活用し、試合中の自分たちの動きなどを客観的に見直すことができ、何が良い動きなのか気付くことができた。
- ・教員が単元の最初の授業で最終ゴールを明示することで、表現する相手意識を明確にもつことができた。様々な表現方法を思いに合わせて選択し、より分かりやすく相手に伝えるための創意工夫を行うことができた。
- ・思考ツールにより、話し合いの観点を明確にして、グループでの話し合いを円滑に進めることができた。

【課題】

- ・どのようなツール（ICTや紙媒体）をどの場面で使えば有効か、教員が例示したり、児童が経験の中で気付いたりしながら伝えたいことに合わせて選べるような工夫を行う。
- ・児童の意欲を高めるミッションを設定する際に、単なる面白さだけでなく、単元の目標を基とした力を身に付けるための活動を計画する。
- ・「教員主導」から「児童主体」へ私たちの指導観を新たにし、児童の発言を中心に進める導入の工夫など、日々の授業改善を積み重ねていく。